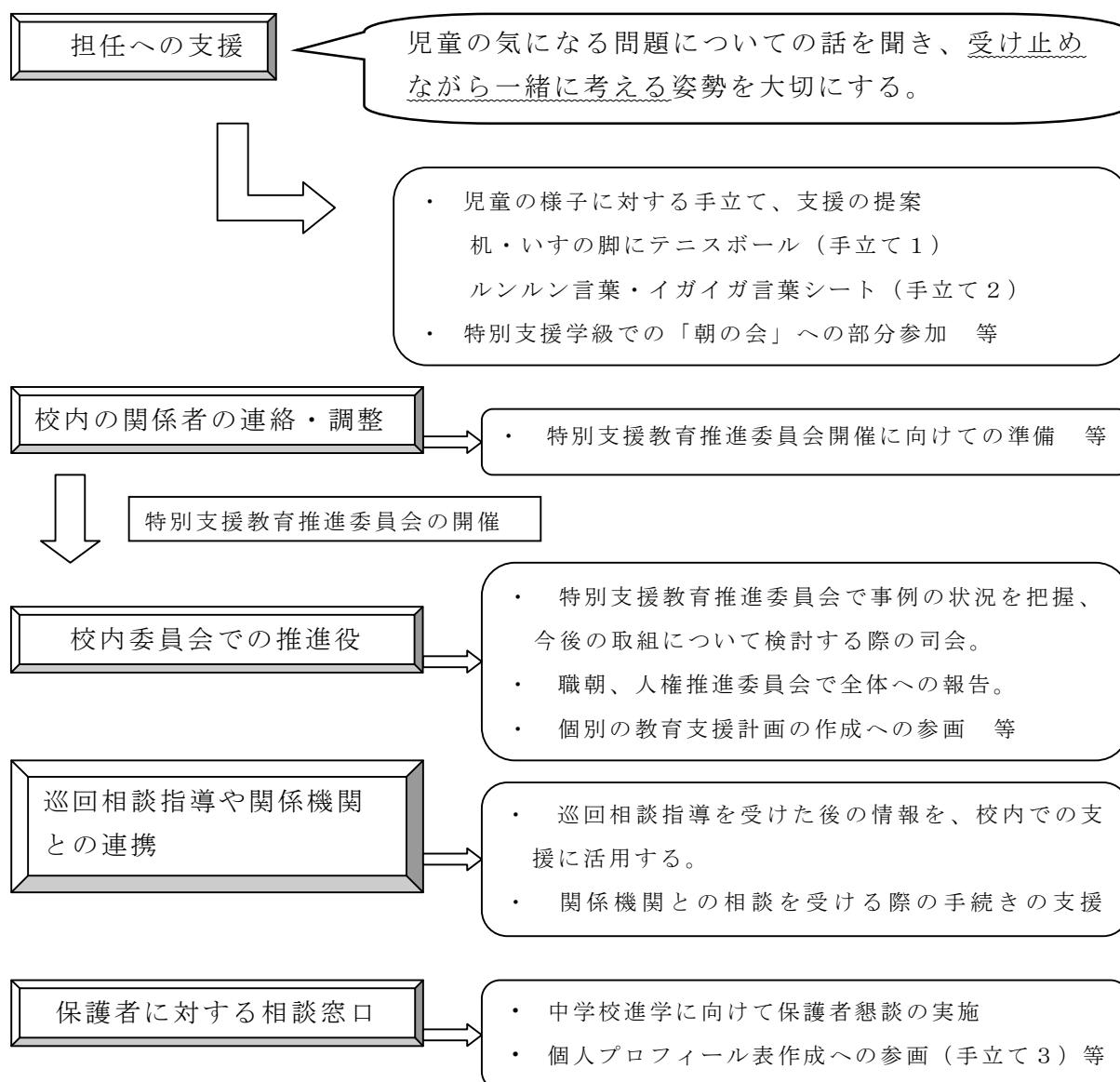


担任への支援を中心とした

特別支援教育コーディネーターの取組

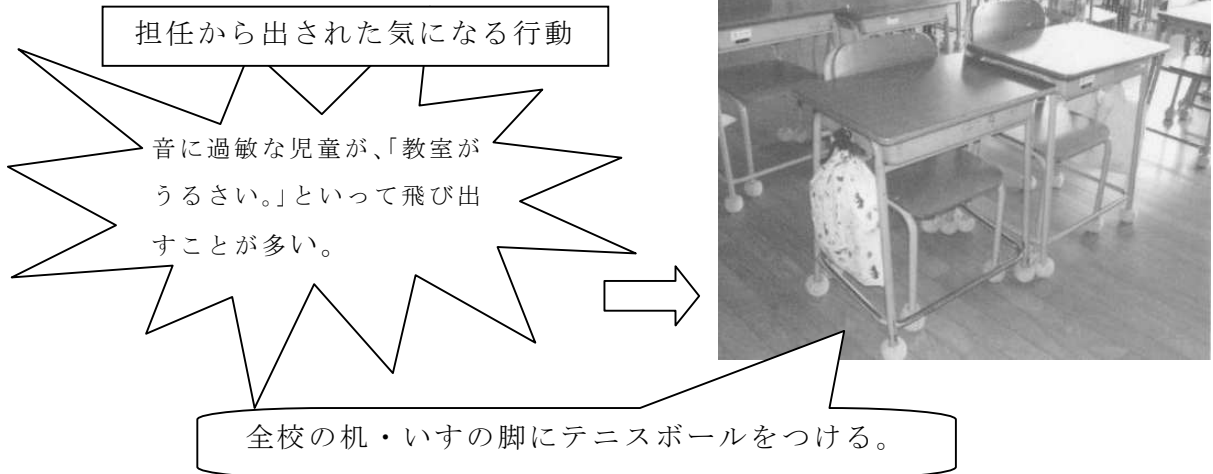
本校は、全校で13学級の比較的小規模な学校である。平成16年度より特別支援教育推進委員会を設置しており、学級担任が日頃の指導で気付いた「気になる児童」について、少人数でその課題や対応について話し合いをもっている。そして、その結果を全職員で共有し、校内での支援を積極的に行っていく体制をとっている。その中で、ここでは担任から出された困り感をもとに全校で行った取組や教材の工夫を中心に紹介する。

1 特別支援教育コーディネーターの取組



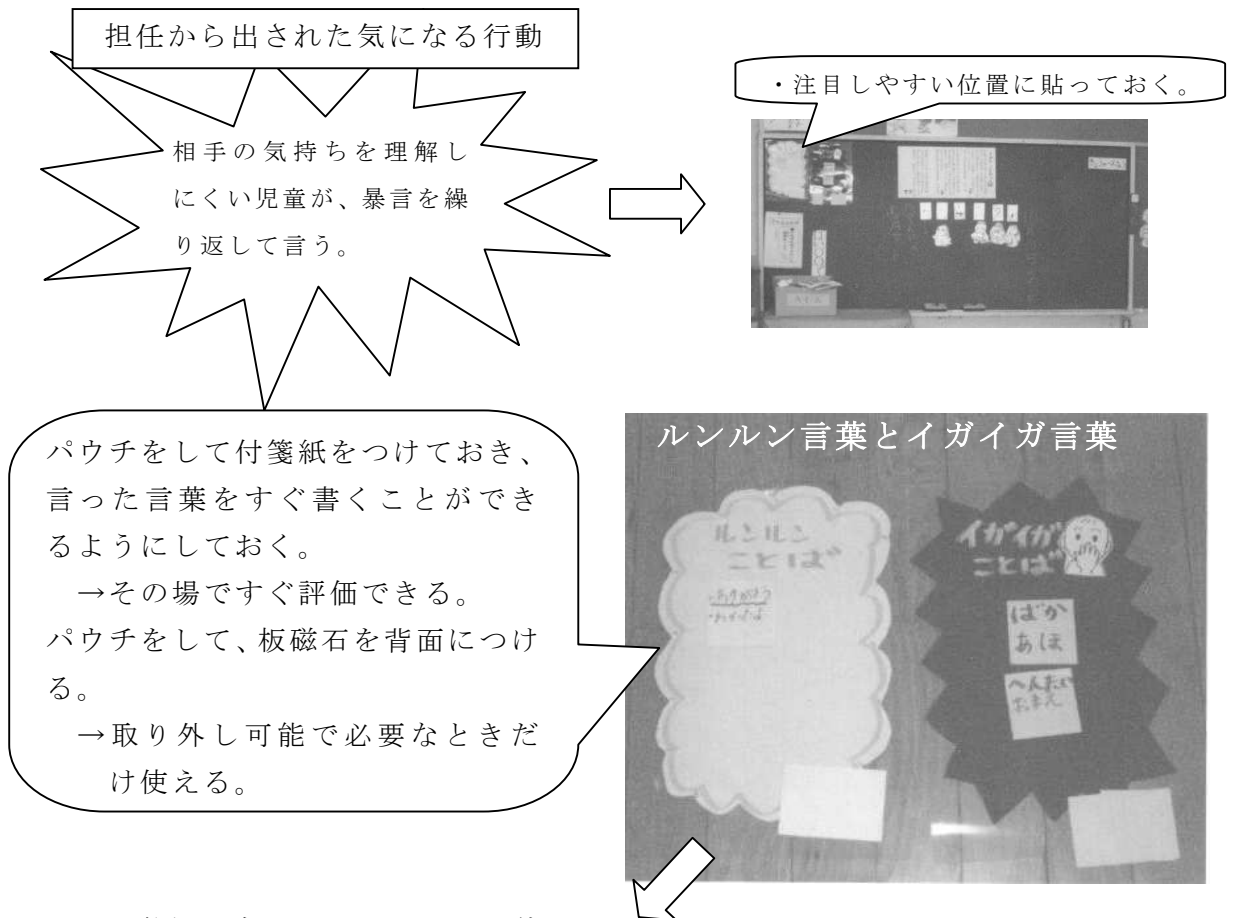
2 児童への手立て

(1) 手立て1



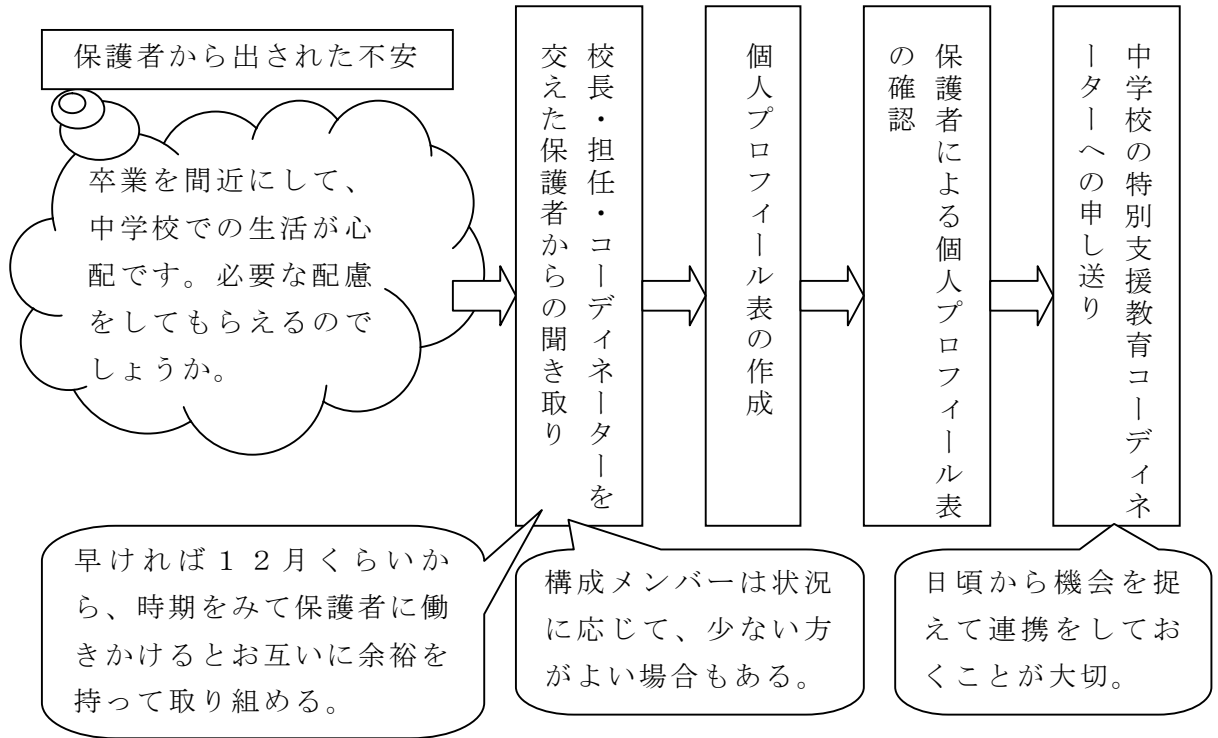
- ・ 雑音が消えて、音に過敏な児童の飛び出しが少なくなった。
- ・ 他の児童も授業に集中しやすくなった。

(2) 手立て2



- ・ 1～4学年の全クラスで共通して使った。
- ・ 好ましくない言葉が視覚的に分かりやすいイラストもつけたことで、掲示を指さすだけで言葉に気を付けようとする様子が見られるようになってきた。

(3) 手立て3



【個人プロフィール表形式】

児童プロフィール表

年 月 日 記入者()

児童名		生年月日	
保護者名		家族構成	
住所			
検査等			
診察・相談・教育歴	才 月		
	年 月		
現在連携している機関 (教育・支援機関・地域の活動・塾等を含む)			
医療・健康での配慮事項			
本人の様子(興味・関心・行動の特徴)			
その他・配慮事項			

- ・ 小学校から中学校へと新しい環境に入るとは、児童にとっても保護者にとっても不安や心配がある。特に、そうした環境の変化に大きなストレスを感じやすい児童にとっては、必要な支援が一貫して行われることが、新たなスタートをスムーズに切るためには欠かせない。
- ・ 保護者にとっても引き継ぎ事項がはっきりと文章化され、自分が同意できる内容であることが安心感につながる。
- ・ 引き継ぎに当たっては、個人情報の保護という観点からも、細やかな配慮が必要である。